

生き生きむらだよりNo.33

平成23年9月 宮城県大河原地方振興事務所農業農村整備部

☆☆☆管内ニュース☆☆☆☆

隈東地区ワークショップ・先進地視察会を開催

～地域ため池総合整備事業採択へ向け～

角田市隈東地区では、平成25年度の地域ため池総合整備事業の新規採択を目指し、平成22年度より地域住民によって組織された「ため池を考える会」の活動が行われています。

第2回ワークショップ（7月7日（木））では、は猿田・仙石・内町・池田のため池毎に4つのグループに分け、事前に現地調査・聞き取りを行ったため池の地域資源を「現在活用している資源」「今後活用できそうな資源」「活用は難しい資源」とに分類し、それぞれについて、今後どうしたらよいか・どうしたいかをグループ毎に話し合いました。



ワークショップでの発表の様子

ため池を考える会のメンバーは積極的に発言し、楽しい雰囲気の中でも真剣に取り組んでいました。



先進地視察研修の様子

また、第3回ワークショップ（8月30日（火））では先進地視察として登米市にある機織沼や平筒沼、その近隣の道の駅を視察研修しました。地区外のため池の利活用例を見たため池を考える会のメンバーからは、「共同作業での草刈りや自然を活かした観光施設としての利用を真似してみたい」、「自分達の地域のため池管理においても、協力しあう体制をつくりたい」といった声があがりました。

第2・3回のワークショップで出された意見や提案の実現に向けて、第4回ワークショップ（9月13日（火））では、「実施してみたい地域活動」を「実現の可能性」・「いつ開始したい」・「誰が行う」・「優先順位」について整理し、「整備をして欲しい施設」も同様に「実現に向けた希望」・「設置後誰が管理するのか」・「優先順位」について整理しました。その後、整理した意見を、一年を通して実施してみたい地域活動とそれに関連したため池の管理について季節毎にまとめ、各班ごとに発表を行いました。

これら一連のワークショップの成果としてため池を考える会でまとめられた意見は、地域整備構想としてため池の整備計画案に盛り込まれます。次回は、11月にため池を考える会と地元小学生が地域活動としてため池付近の森で植樹活動を行い、ため池にとっての森林の重要性を学ぶ予定です。

農作業体験in前川

～中山間地域総合整備事業採択へ向け～



川崎町前川地区では、平成25年度の中山間地域総合整備事業の新規採択に向けての活動に取り組んでいます。平成22年12月に設立した前川生産組合の地域活動として、川崎町立前川小学校の3年生から6年生児童が地域住民らとともに農作業体験をしました。

第1回目は6月24日（金）、地元農家の畑で3・4年生による大豆の播種作業、7月13日（水）には除草作業が行われました。子どもたちは皆真剣に作業手順や播種する大豆ついて

の説明を聞き、一生懸命に作業を行っていました。

第2回目は同じ畑で6年生によるソバの播種作業が7月19日（火）に実施されました。大豆やソバは今後、9月～11月に収穫され、地域のお母さん方の力を借りて、子どもたちの手によって調理されます。

この農作業体験は地域交流の場となるだけでなく、子どもたちが自分たちの手で作物を育てる喜びを体験することで、身近にある農業というものの魅力を再発見する機会となったことでしょう。

今後は10月にソバの摘み取り作業や調理体験が行われる予定です。



大鷹沢小学校生き物調査

～ふる水基金事業～

白石市内では、中山間地域等農村活性化事業の一環として、ふるさと水と土指導員が活動の中心となって、地元小学生を対象とした生き物調査を実施しています。



6月29日（水）には、白石市立大鷹沢小学校5年生19名が小学校近くの水路や水田で、9月14日（水）にはその上流側の沢で調査を行いました。両日ともに、角張指導員をはじめ、関係機関を含めた約30名の参加となりました。

児童が5グループに分かれて調査を行った結果、ドジョウやカジカなどをはじめとする様々な生き物を発見することができました。普段はなかなか目にする事のなかった生き物に、子ども達は楽しくも真剣に取り組んでいました。

上流側の生き物調査では、水路や水田では見つからなかったホトケドジョウなどの生物が発見され、おなじ農業用水でも上流と下流とでは水そのものや周囲の環境が違うということを感じていたようでした。

また、生き物調査の後には角張指導員から地域の水田と田んぼの生き物等についての話があり、子ども達は環境を守る大切さを感じてくれたので、今後も地域の環境を率先して守ってってくれるものと思います。

大鷹沢小学校では、12月に生き物調査のまとめとして発表会を行う予定です。

震災復旧・復興へのみち ～復興への思い～

本トピックスでは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に関する復旧状況や復興を祈願する地域活動について紹介します。当事務所も、復興へ向けての地域活動を応援しています。

金ヶ瀬地区コスモス植栽活動

～21世紀土地改良区創造運動～

21世紀土地改良区創造運動の一環として、7月20日（水）、広域農道仙南東部地区・金ヶ瀬工区において、コスモスの植栽活動が開催されました。参加者は地域住民・担い手農家や関係機関を含めた62名となりました。

本活動は広域農道の利用者に安らぎの田園風景を提供するとともに、地域住民の交流を目的として毎年開催されており、今年度で7回目を迎えたものです。

今年は震災の影響から見送ることも検討されましたが、大震災復興と地域の活性化につながるよう、コスモスの花で少しでも多くの人に元気を与えることができるようにとの願いを込めて、開催へと至りました。

水土里ネットくろすいの跡邊理事長より、今年度も開会できたことについての喜びのご挨拶がありました。「光」のイメージを持ち、喜びや明るさを表す「黄色」の花を咲かせるキバナコスモスを、復興への願いを込めて植栽するとのことでした。

また、大河原地方振興事務所山田所長より、開催にあたってのお祝いと復興を願う今年度の活動にも参加させていただけたことへの感謝を申しあげました。



当日は台風6号の影響で小雨の降る悪天候の中での作業となりましたが、参加者全員が協力した結果、約1.2kmにわたる農道の植栽帯141区画への播種が無事終了しました。

今回も多くの地域住民が参加し、協力しあって作業を行いました。播種したコスモスは9月中旬から花を咲かせ見頃を迎えますが、11月頃まで花を咲かせています。

復興への願いを込めて作業にあたった皆さんの思いがコスモスの見頃とともに咲き誇ることでしょう。

次回は12月に、播種したコスモスの除去作業を行う予定です。

管内災害査定状況

このたびの東日本大震災により、甚大な被害を被った農地・農業用施設及び農業用集落排水施設の早期復旧に向け、災害査定が県内全域で行われています。災害査定は、適切な災害復旧に向け、農政局と財務局の係官（査定官，立会官）が現地において、県市町・土地改良区の災害復旧事業計画の申請に対し、国が負担する災害復旧事業費を決定するものです。

大河原管内でも、8月第2週までに申請予定全115箇所のうち、8割に相当する92箇所の災害査定が終了し、査定額（事業費）は514百万円となっています。

7月以降の査定にあっては、九州や近畿・北海道の農政局・財務局から応援査定官・立会官が派遣されています。例年より早い梅雨明けもあり、猛烈な炎天下で顔や腕を真っ赤に日焼けしながら査定は進んでいます。

査定が終わると復旧工事に着手します。今後も順次査定を受けながら、農地・農業用施設及び農業用集落排水施設の早期復旧に向けて取り組んでいきます。



決壊した朴ノ木ため池（川崎町）における災害査定の状況

わらじで歩こうセケ宿

去る8月21日（日）、セケ宿町で「震災復興祈願 わらじで歩こうセケ宿」が開催され、大河原地方振興事務所農業農村整備部等から有志36名が参加しました。第26回を迎える今年は、3月11日の大震災を受け、「震災復興祈願」として開催され、参加費の一部が震災復興義援金として宮城県に募金されます。



当日の気温は17度と秋を感じさせる冷たい雨が降る中でしたが、セケ宿スキー場からセケ宿町役場までの旧セケ宿街道、約11kmを歩きました。道中は、地域の方々から振る舞われる麦茶、漬け物、フルーツや岩魚の焼き物などセケ宿町の「味」を堪能しながら、岩魚の放流や炭蒔き体験など、夏のセケ宿町を体感できるイベントでした。

震災復興祈願しながら、「みやぎ蔵王三十六景」もしっかり宣伝し、無事完歩です！

☆☆☆☆この資料に関する問い合わせ☆☆☆☆

宮城県大河原地方振興事務所 農業農村整備部 計画調整班（農村活性化担当）

○電話：0224-53-2639（直通）

○FAX：0224-53-3071

○ホームページ⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/oksgsin/nn-top/menu-nn-top.htm>